

岐阜県経済の現状



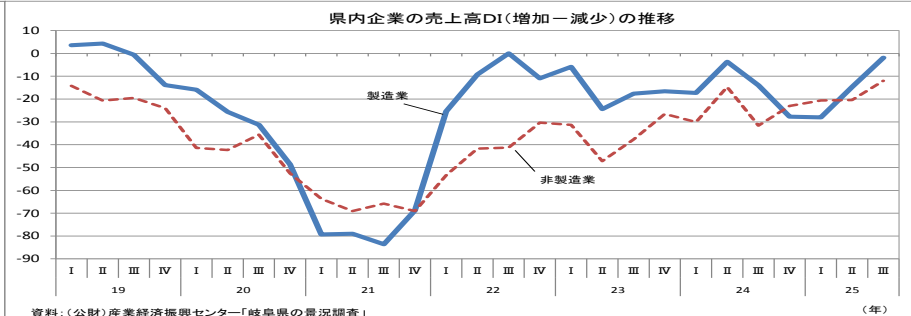
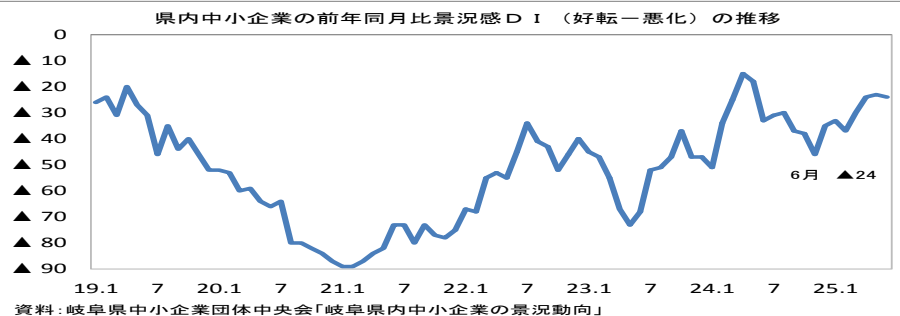
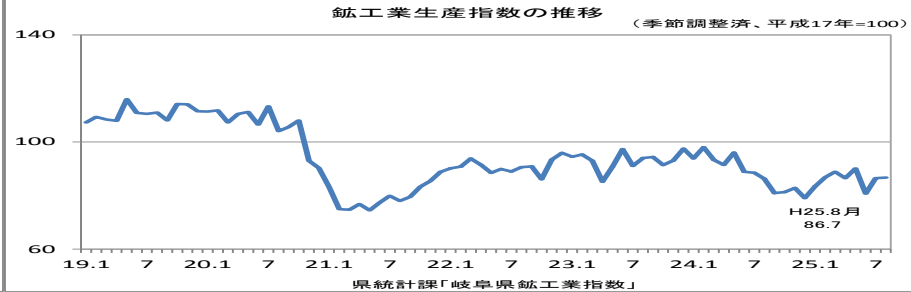
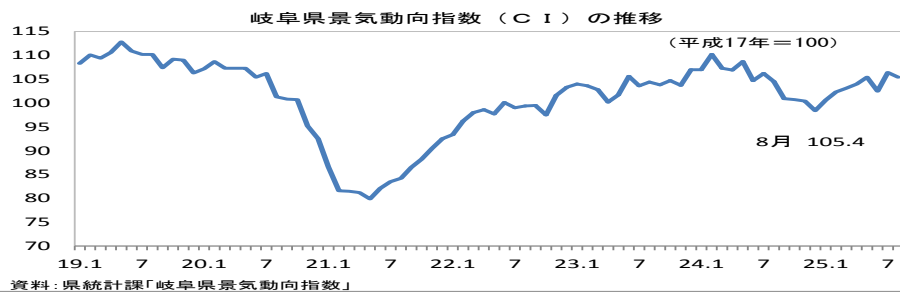
平成25年10月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは10月29日～31日を中心に実施し、11月11日に作成。

景気動向・製造業

○8月の景気動向指数(CI、一致指数)は105.4と前月から1.0ポイント下降。県内中小企業の6月の景況感は、1ポイントの悪化。

○8月の鉱工業生産指数は、0.2%増の86.7となった。製造業及び非製造業の売上高は増加。



現場の動き

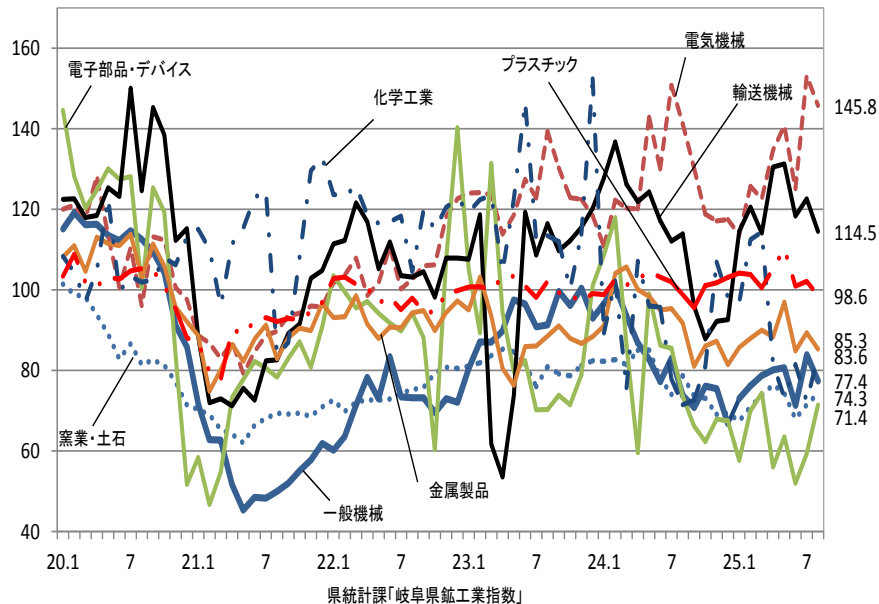
- ◆取引先(自動車)の新機種開発後の生産準備で非常に忙しい。
- ◆業務用発電機、ブルドーザー、フォークフトなど金額の嵩む機械の部品は先取り受注が入ってきている。
- ◆トヨタ全体の生産量が伸びており、引き続き好調な状況が続いている。(以上、輸送用機械)
- ◆売上げはここ数ヶ月平均でピーク時の60~70%程度。少しずつではあるが回復している。(電気機械)
- ◆前期の決算からリーマンショック直前に戻りつつある。(生産用機械)
- ◆海外では、中国やアメリカの景気があまり良くなっていないが、国内は堅調である。(はん用機械)
- ◆売上・受注量はリーマンショック以前に回復した。
- ◆出荷量は対前月で約3%増加した。新規部品の発注や取引先からの受注量の増加によるものである。(以上、金属製品)
- ◆引き続き好調な状況で、11月も同程度の出荷量を見込んでいる。(プラスチック)

製造業-2(業種別)

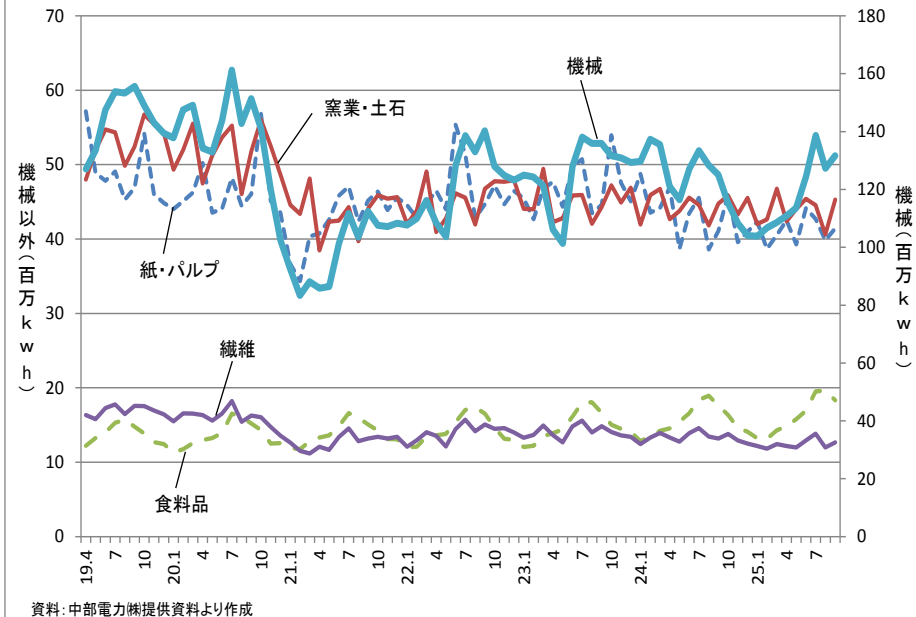
○8月の生産指数は、電気機械、輸送用機械などの産業で低下したものの、化学工業、窯業・土石などの産業で上昇した。

○9月の工場向け販売電力量は、繊維で前年を下回ったものの、紙・パルプ、窯業・土石、機械で前年を上回った。

主な産業の生産指数 (季節調整済、平成17年=100)



業種別 産業用大口電力(契約500kw以上)の販売電力量



現場の動き

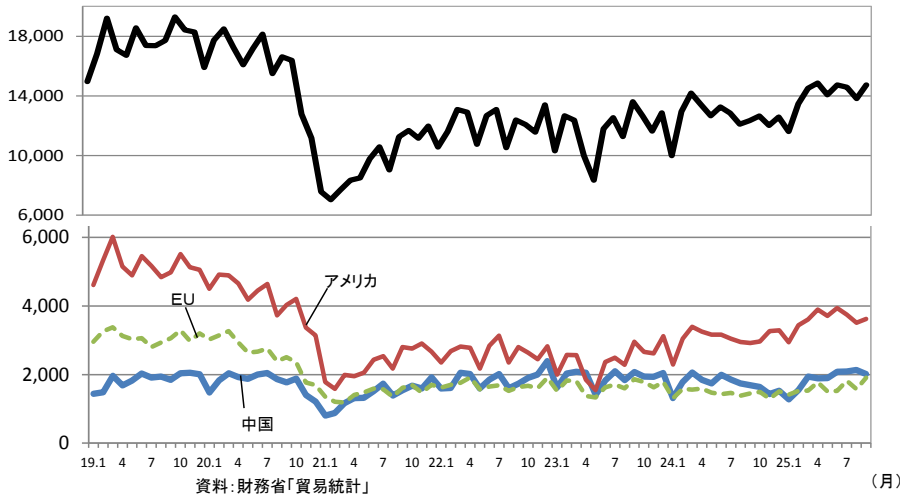
- ◆10月に入っても気温の高い日が続いたため、秋服の販売が不調。昨年比7~8割程度の売上に止まっている。(アパレル)
- ◆この夏は売上が相当落ち込んだ企業が多い。冬には持ち直すことを期待しているが、毎年そのような期待を持っても現実的な売り上げにはつながっていかない。(陶磁器)
- ◆景況感についてはここ数か月大きな変化はない。(刃物)
- ◆景況について、昨年と比べて、あまり変わりはない。(紙)
- ◆9月、10月は昨年同時期に比べて10%弱のプラス。消費税増税前に住宅着工が増えているので、家具の需要も伸びているものと考えられる。(木工)

輸出

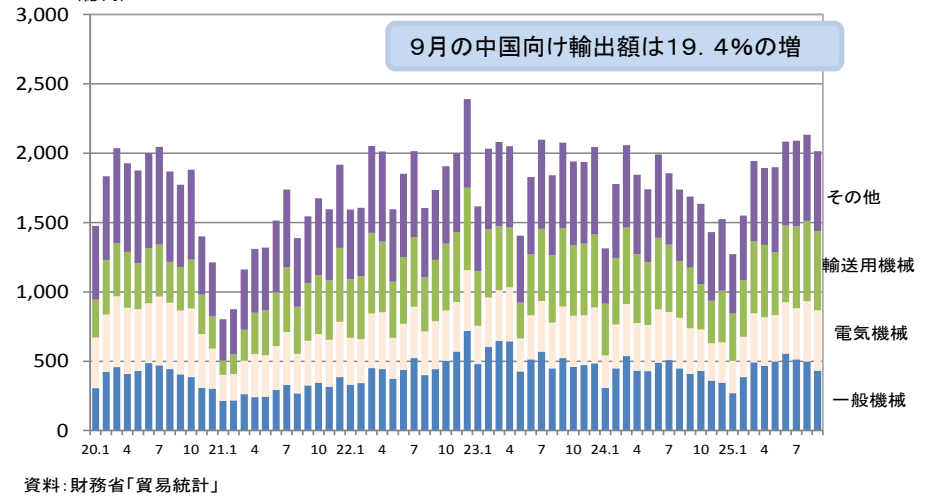
○9月の輸出額(名古屋税関管内)は、14,734億円と前年同月比19.4%増となった。

○中国向け輸出は一般機械、輸送用機械等の全ての産業が増加したことで前年同月比19.4%増と6カ月連続の増加となった。アメリカ向け輸出も一般機械、輸送用機械等の全ての産業で増加したことで前年同月比24.1%増となり、12か月連続で前年を上回っている。

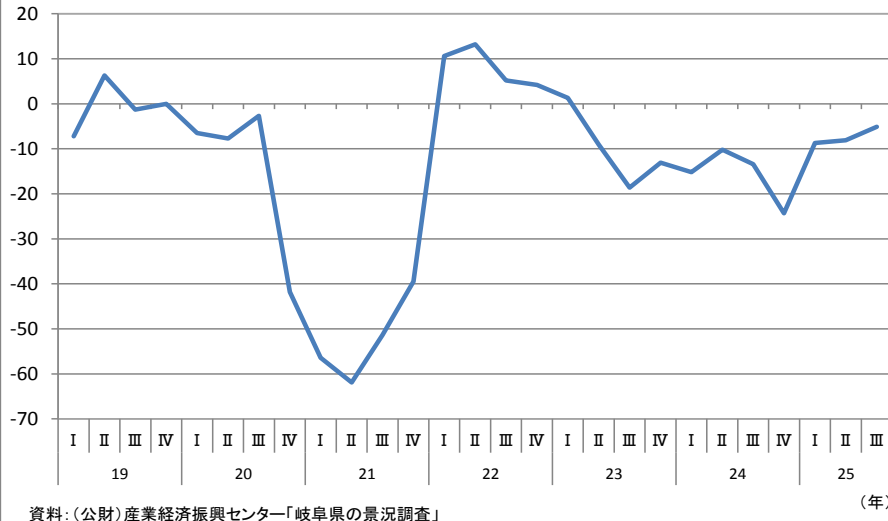
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(全産業)



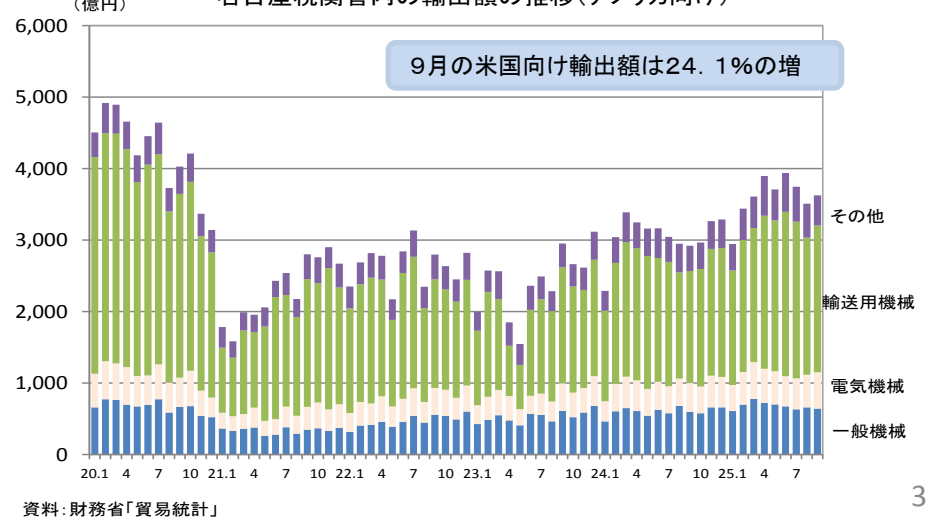
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(中国向け)



県内企業の輸出向け売上高DI(増加-減少)の推移



名古屋税関管内の輸出額の推移(アメリカ向け)

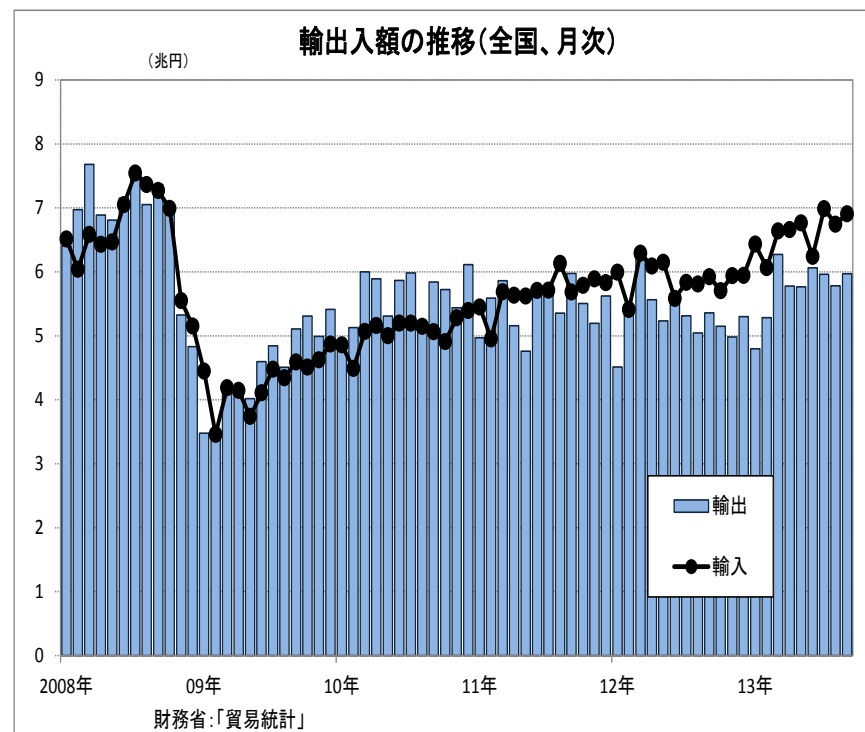


アベノミクスの効果・影響について

- ◆アベノミクスの効果としては、海外工場への輸出が増加したこともあり、景気が上向きになっていると感じられる。(輸送用機械)
- ◆アベノミクス等経済政策による影響あり。(生産用機械)
- ◆アベノミクス効果として未だ感じられない。(金属製品)
- ◆アベノミクスの影響は有る。(プラスチック)
- ◆アベノミクスにより賃金は上昇していないため、波及効果は見られない。(アパレル)
- ◆アベノミクスの効果・影響については、地元にいるときは分からないけれど、東京に行くと、多くの工事を目にする事が多く、効果を感じる。(食品製造)
- ◆アベノミクスの効果、影響については全く実感が無い。(紙)
- ◆アベノミクスの影響ではないと回答する企業が多かったものの、徐々に景況感が上向きになっている気配はあり。(人材派遣会社)
- ◆全体的に見て、いい影響が出てきたとの感触まではまだない。(金融機関)

円安・原油高による影響について

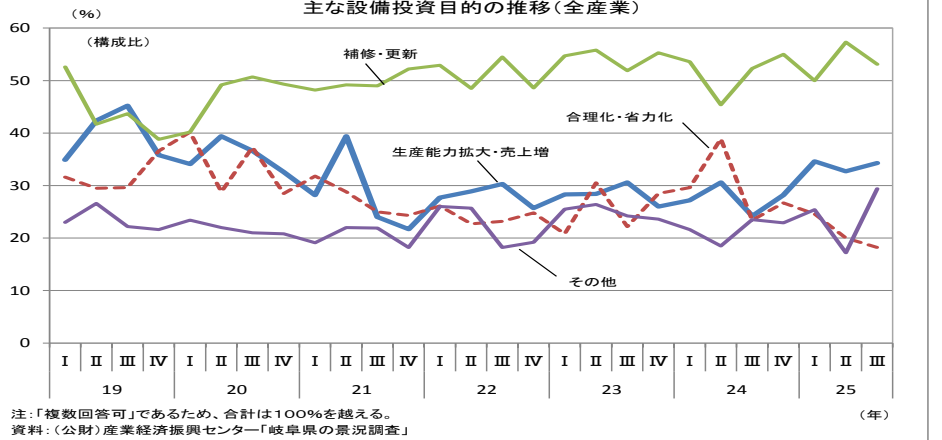
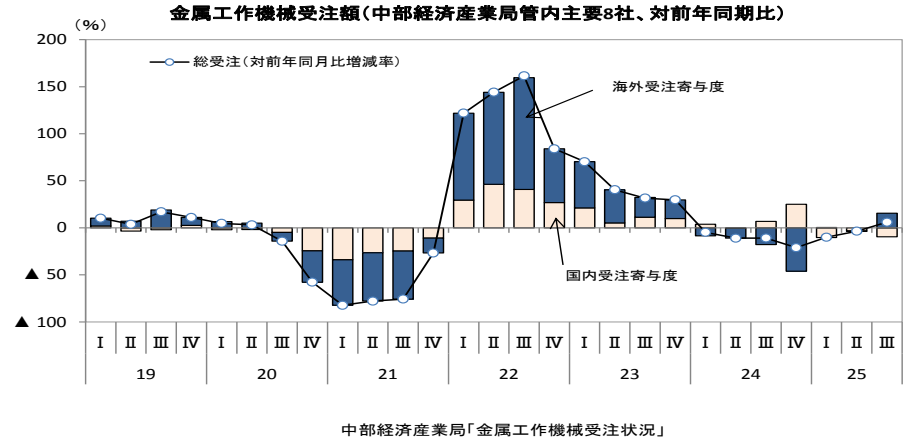
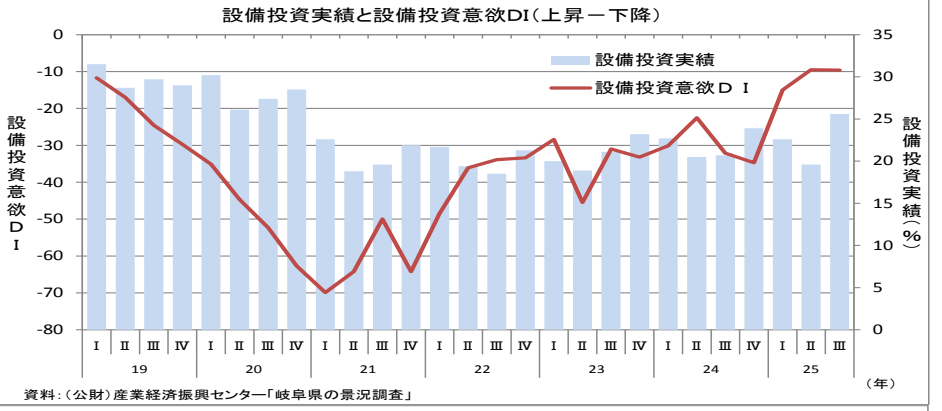
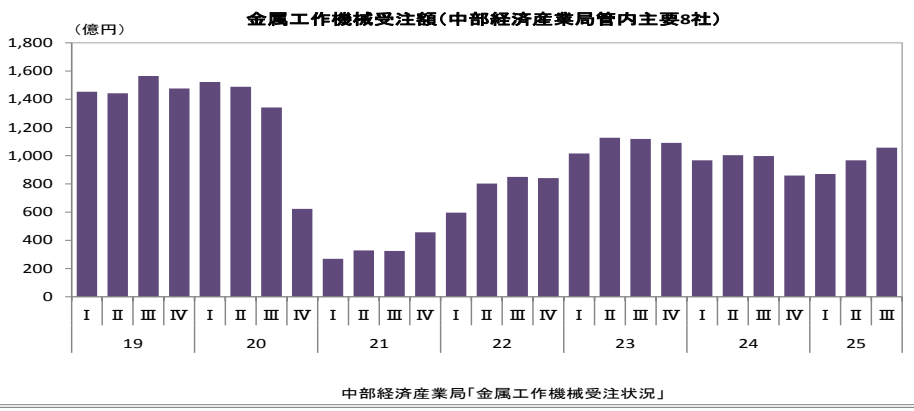
- ◆円安による輸入材料の高騰が大きな痛手となっている。(食料品製造)
- ◆円安による影響は、先月同様自動車の輸出が好調で受注量に反映している。
- ◆電気代はH24. 4月以降、単価が10%上がっており、来春以降それに8%上乘せされるとなると頭が痛くなる一方である。(以上、輸送用機械)
- ◆自動車部品の調達に中国から国内に回帰されるものが出てきた。(生産用機械)
- ◆円安により原材料費が上がっているが、取引先との交渉ができ価格へ転嫁することができるようになった。(金属製品)
- ◆原料価格は、高止まり状態となっている。販売価格への転嫁活動を実施したが環境は極めて厳しい。(プラスチック)
- ◆円安、原油の高騰により原料価格が上がっている。電気・ガス料金の値上げも加わり、収益は悪化傾向。(アパレル)



設備投資

- 生産用機械の受注額は、海外受注が増加したことで、7期ぶりのプラスとなった。
- 設備投資意欲DIは改善している。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加した。



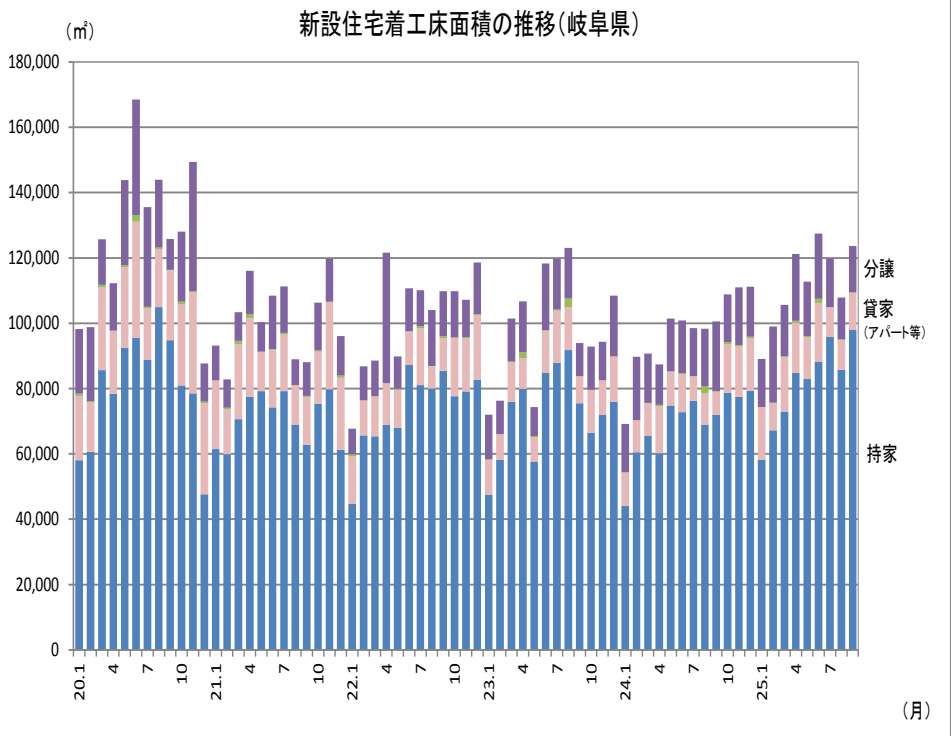
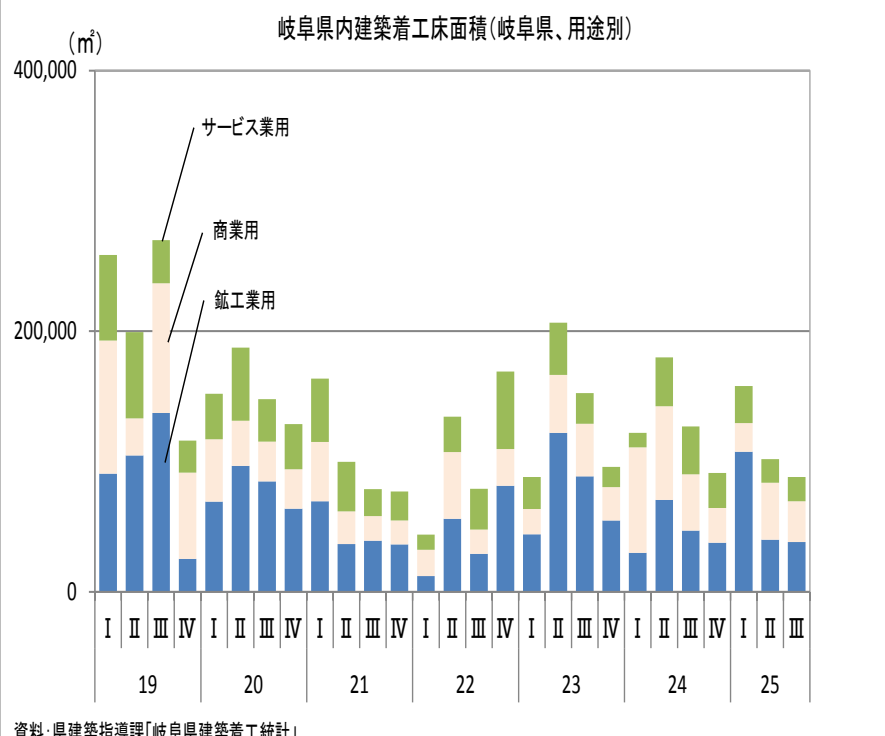
現場の動き

- ◆国内大手企業の設備投資計画が低迷しており、国内の受注状況は相変わらず低迷している。(生産用機械)
- ◆設備投資を今年の10月、12月に数千万円規模で計画している。(はん用機械)
- ◆ラインを増やしたりなどの、好況を受けての前向き設備投資はあるが、その動きは本当に一部であるので、地域的に見ても、業種的にみても、全体的には横ばいという動きだろう。(金融機関)

住宅・建築投資

○25年7-9月期の建築着工は、全ての用途で減少したことにより、全体では前年同期比30.6%の減となった。

○9月の住宅着工は、分譲では減少したが、持家、貸家が増加したことにより、全体では前年同月比23.0%の増と13カ月連続の増加となった。



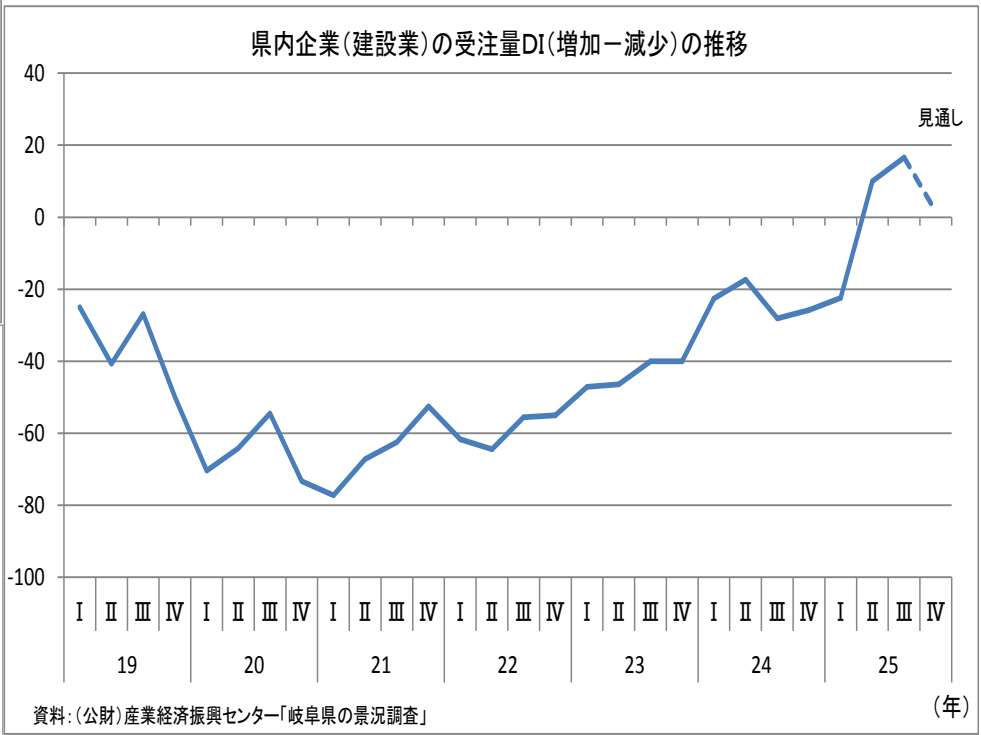
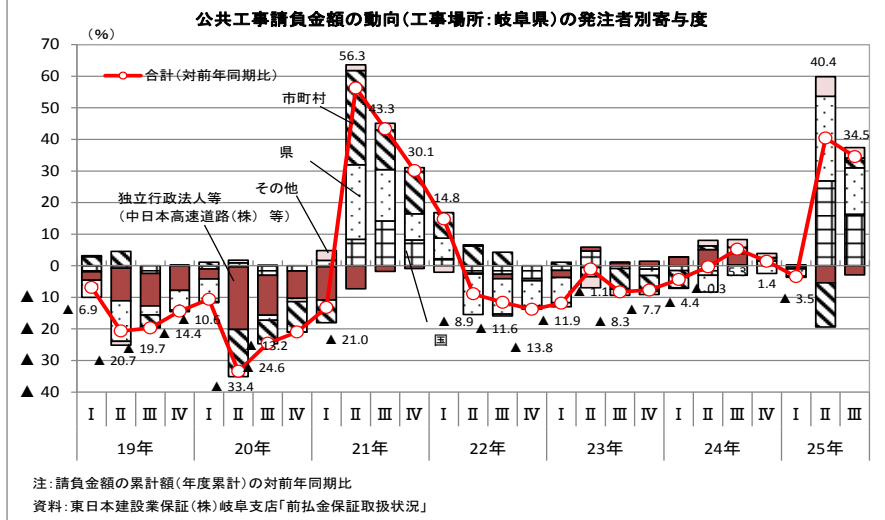
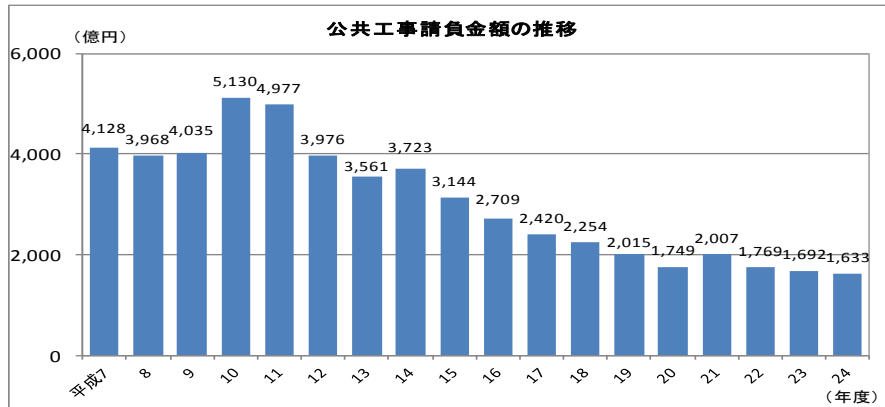
現場の動き

- ◆原木の入手に苦慮。今後も続くと工場の稼働、売り上げにも影響する。
- ◆先月末ころからプレカットを中心に売上が急激に伸び出した。(以上、製材所)
- ◆原木の流通量は、前月から横ばい状況である。需要に対して生産が追いついていないため、在庫で対応している。(森林組合連合会)
- ◆現在、消費税増税に伴う、前倒し需要により、前年比増で推移しており、繁忙状態であるが、今後の着工推移については前倒した分について減少する。(建設会社)

公共工事

○24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。

○25年7-9月期の公共工事請負金額は、国、県、市町村からの発注が増加したため、対前年同期比34.5%増と2期連続で前年同期の水準を上回った。



現場の動き

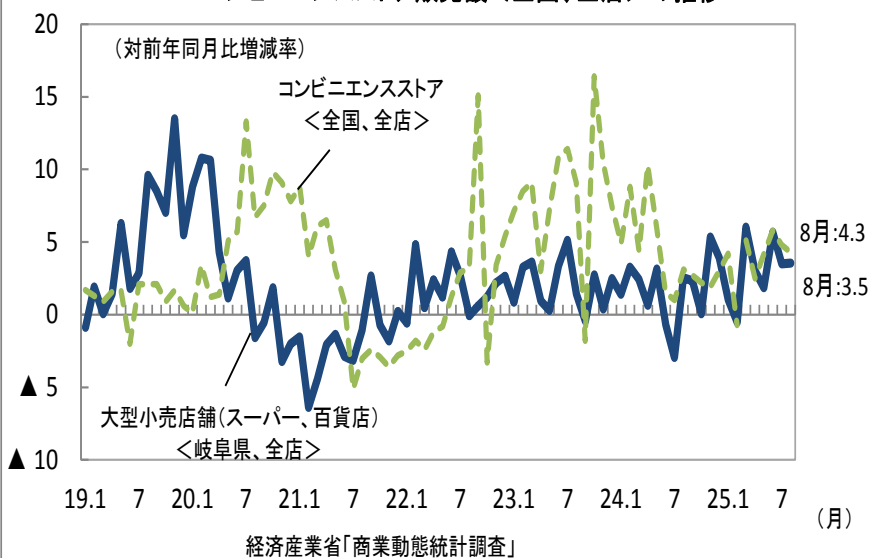
◆各社多少ばらつきはあるが、全体的に手持ち工事も多く忙しくなっている状況である。特に冬をむかえる前に、出来るだけ工事を進めておきたい積雪寒冷地域において顕著である。(業界団体)

個人消費(流通・小売)

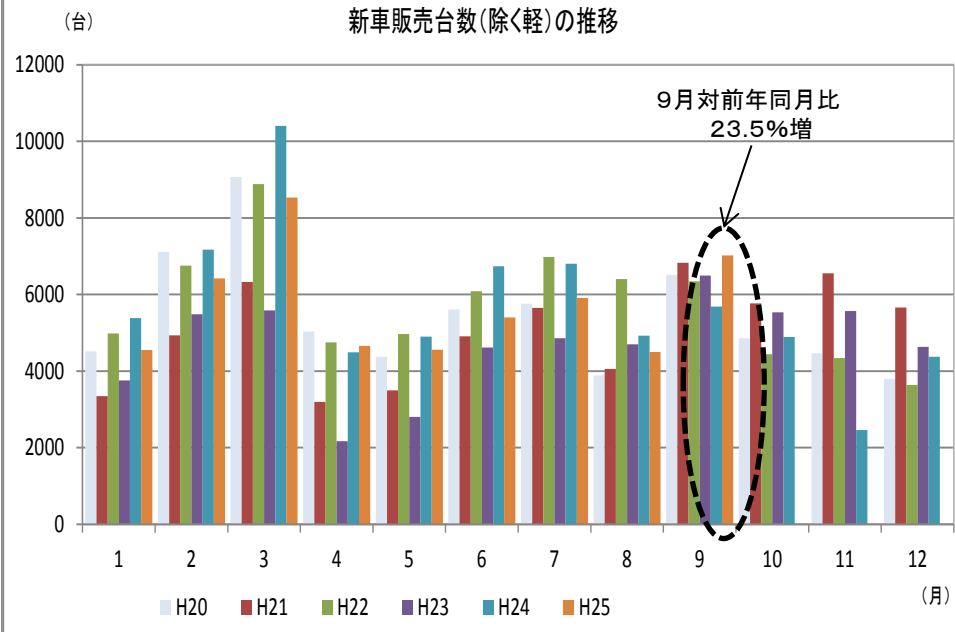
○8月の大型小売店販売額は、対前年同月比3.5%増と6カ月連続の増加となった。

○9月の自動車販売は前年同期比23.5%増と5カ月ぶりの増加となった。

大型小売店舗販売額<岐阜県、全店>及び
コンビニエンスストア販売額<全国、全店>の推移



新車販売台数(除軽)の推移



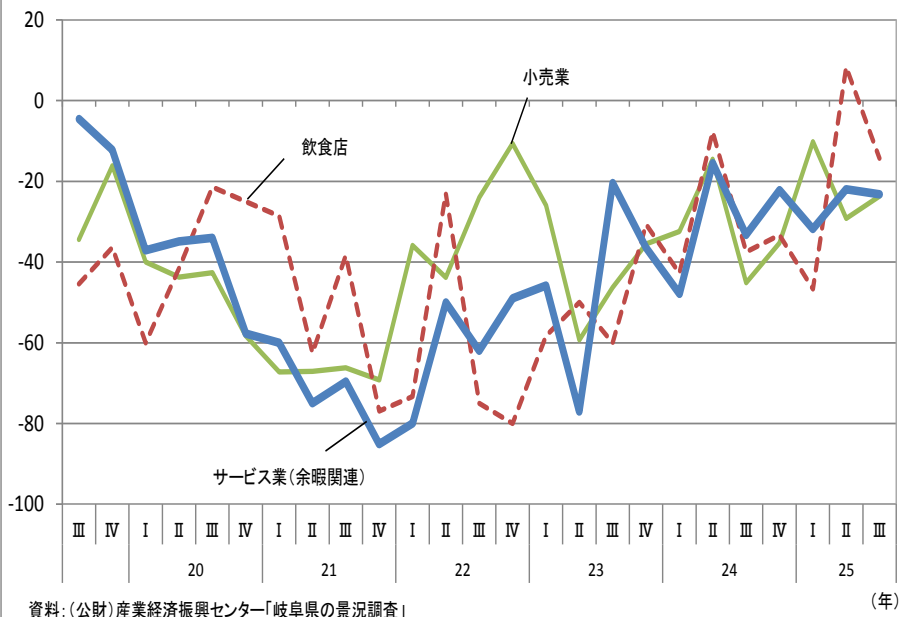
現場の動き

- ◆衣料品は、前半は気温が高く低調、寒くなってきた後半に秋冬物が動き始めた。食料品は全体的に堅調な動き。(大型小売店)
- ◆10月の全体の売り上げは今ひとつ。トレッキング関連は前年比で2割近い伸びを維持。(スポーツ用品)
- ◆10月の売り上げは前年比微増。客数はマイナスだが、客単価が少し上がってきた。TVは前年をやや上回る売れ行き。白物家電はエアコン、冷蔵庫など、全体的に好調だった。(家電)
- ◆今月の売り上げは、対前年比で約98%。台風の影響はさほどなかった。天候が安定しないので、寒暖によりその日の売れ筋が変わっている。野菜の相場が全体的に高い。(食品スーパー)

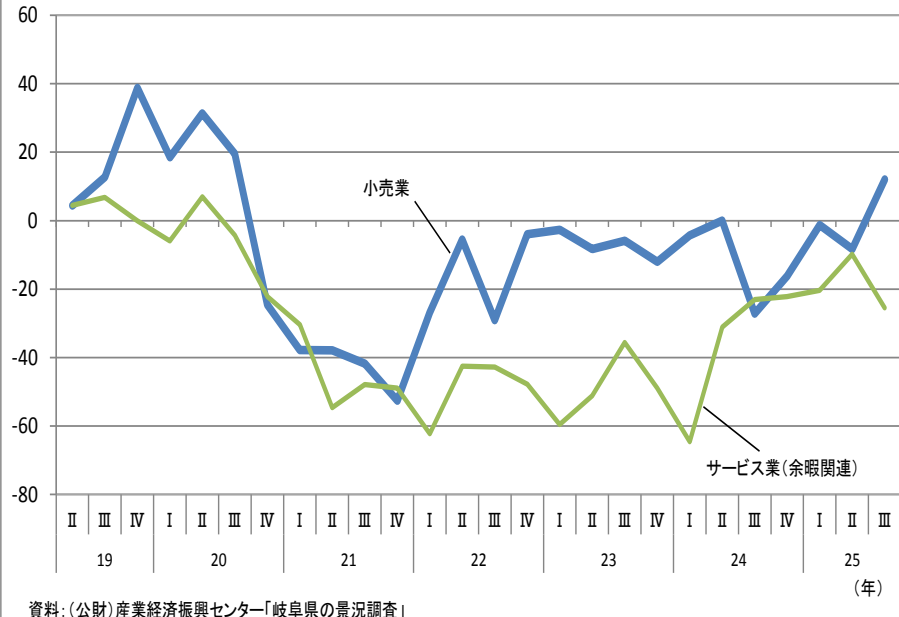
個人消費(流通・小売)－2

○平成25年Ⅲ四半期の小売業については売上高、販売価格ともに増加。サービス業については売上高、販売価格ともに減少。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



現場の動き

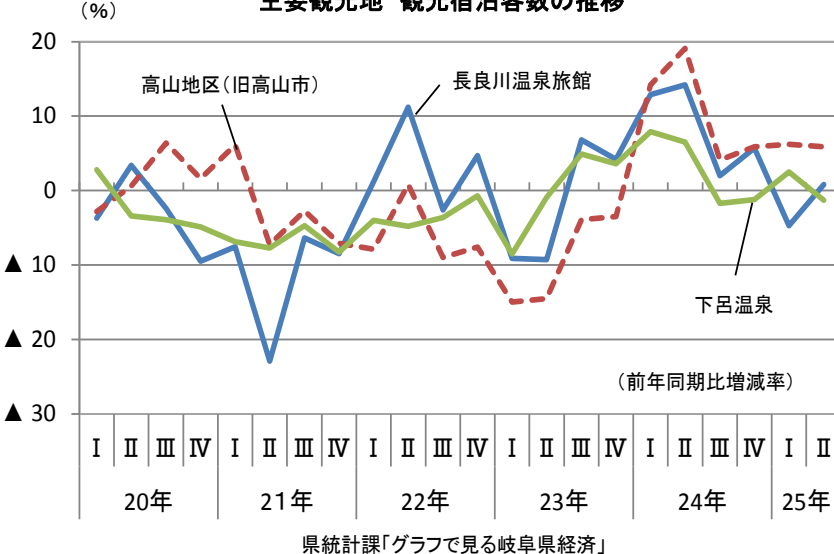
- ◆10月13日は十万石まつりがあり、商店街も大変な人出であった。
- ◆売り上げは前年同月比で90%。天候不順により、あまりよくない。(以上、大垣市商店街)
- ◆10月5・6日の信長まつりは、商店街にも人出が多かった。柳ヶ瀬は10月に入り全体的に店舗の景況よくなってきている。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆高山祭りは平日だったのと、1日は天候に恵まれず、例年より静かだった。中旬以降は順調で、観光客も多かった。
- ◆後半になって、紅葉など観光客も多くなり、売り上げもよくなってきている。(以上、高山市商店街)
- ◆前半は暑くて動きが鈍かったが、後半になって寒くなりよくなってきた。(多治見市商店街)
- ◆既存店舗の売り上げ・客数ともマイナス。昨年は10月中旬まで国体関係者の昼食や宴会等の利用があったことが、前年比減の要因と思われる。(アクティブG)

観光

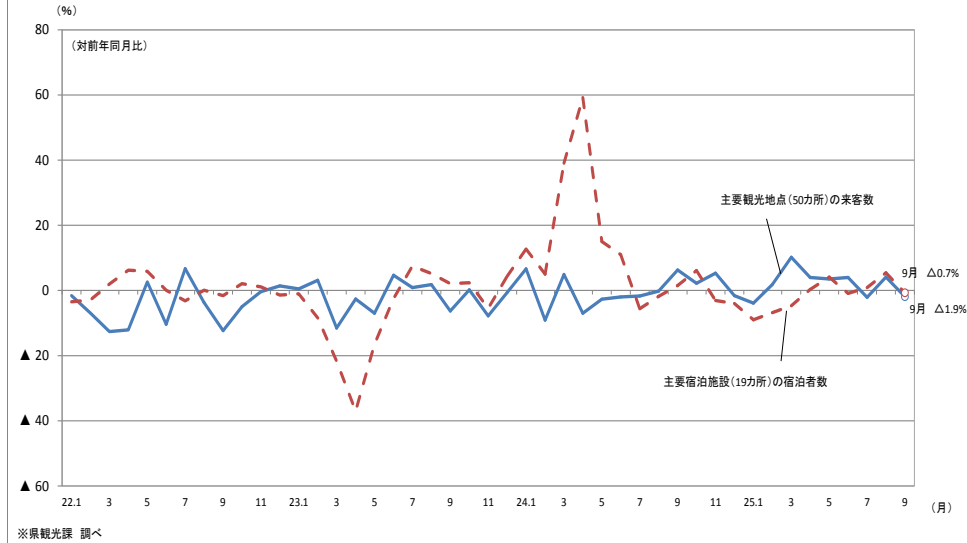
○平成25年第Ⅱ四半期の宿泊客数は、長良川温泉旅館が前年同月比0.8%、高山地区(旧高山市)が5.9%増加したが、下呂温泉が1.3%減少した。

○主要観光地における9月の観光客数は、前年同月比1.9%減と2ヶ月ぶりに前年を下回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は同0.7%減と3ヶ月ぶりに前年を下回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



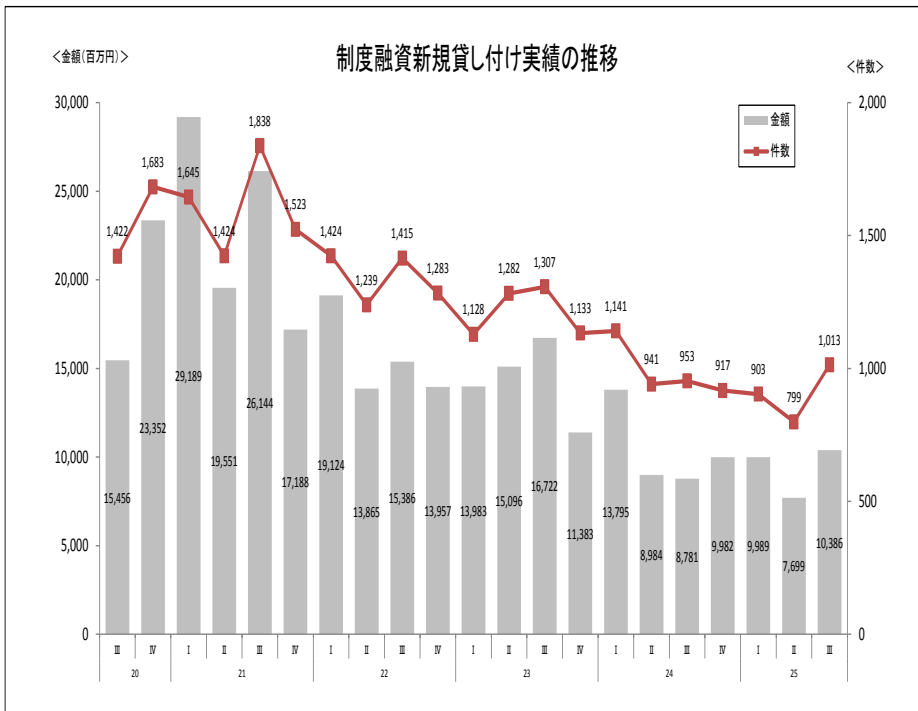
現場の動き

- ◆宿泊施設の足下の状況は、施設によってバラツキはあるものの、昨年のぎふ清流国体・ぎふ清流大会の反動減などから、総じて前年をやや下回る模様。インバウンドは、台湾や香港アセアンなどに加え、欧米でも好調な動き。(宿泊施設の総括)
- ◆10月下旬～11月上旬にかけ、ホッケー関係の団体で満室となる日も多い。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆昨年はぎふ清流国体があり稼働が良かったが、今年は反動減。(大垣、美濃加茂、多治見、恵那市内の宿泊施設)
- ◆連休の宿泊予約は、個人予約を中心に好調。 ◆個人、インターネット予約は前年に比べ、2%程度上昇。
- ◆観光バスの運転手配置基準の厳格化により、国内の遠方からの団体宿泊客が減少。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドは国籍を問わず多く入ってくるが、中でも台湾、中国からが多い。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆タイ、香港の動きが良く、前年の水準を上回っている。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆アジアが依然として好調であることに加え、欧米も好調に推移。(高山市内の宿泊施設)
- ◆マレーシア、タイなどの東南アジアや香港が好調で、前年の水準を上回っている。(下呂市内の宿泊施設)

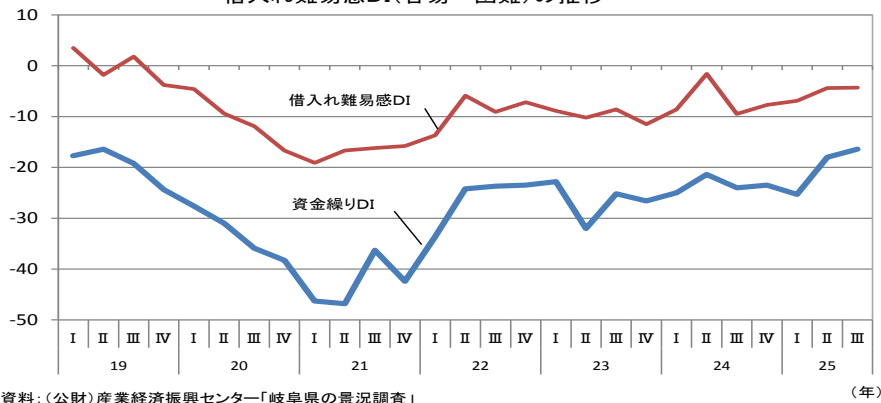
資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しを感じる。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

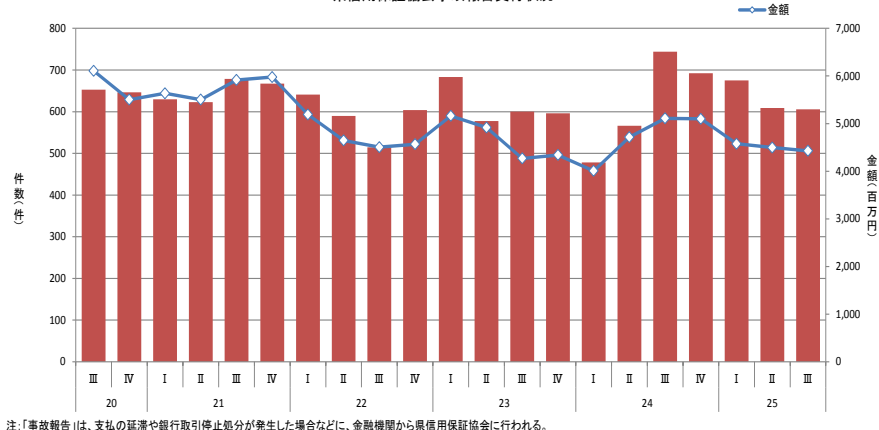
<新規融資実績>



県内企業の資金繰りDI(好転-悪化)及び借入れ難易感DI(容易-困難)の推移



県信用保証協会事故報告受付状況



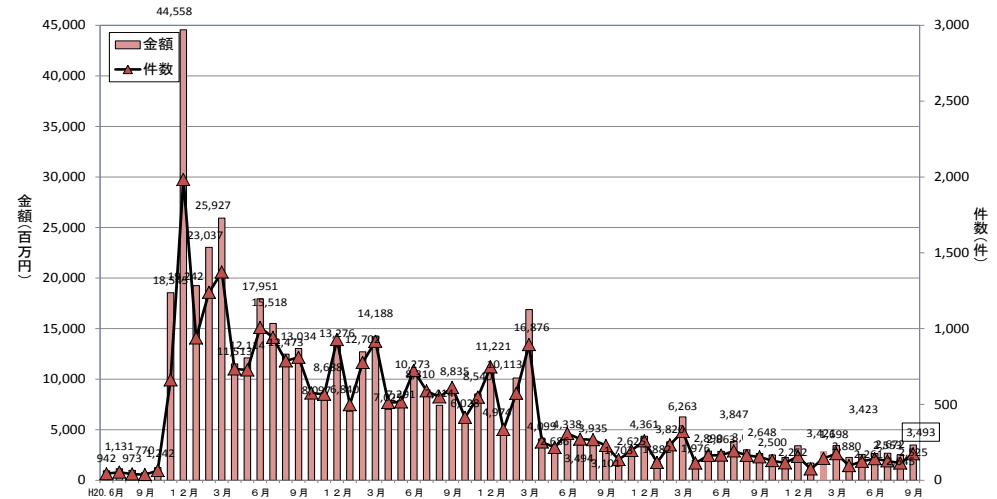
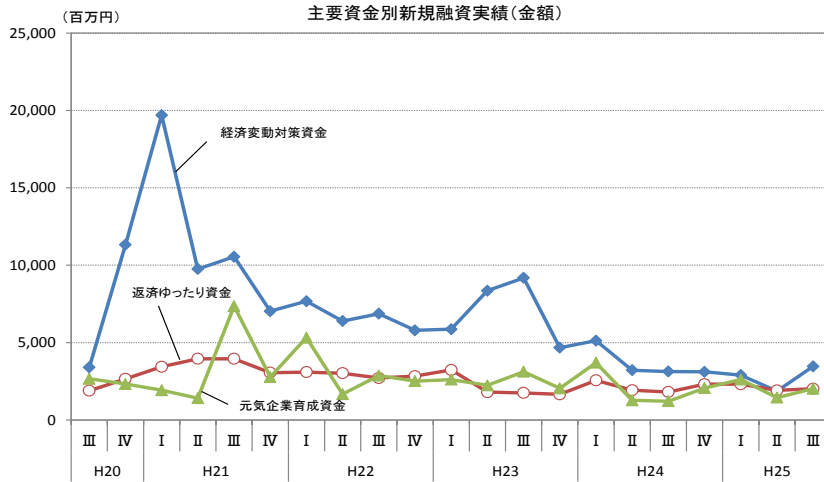
現場の動き

- ◆基本的な状況は、悪くはなっていないが、横ばい。
- ◆発表される指標が上向きなのは把握しているが、資金需要に変化はない。
- ◆先月くらいまでは動きのあった、個人向け住宅ローンも落ち着いてきた感がある。(以上、金融機関)

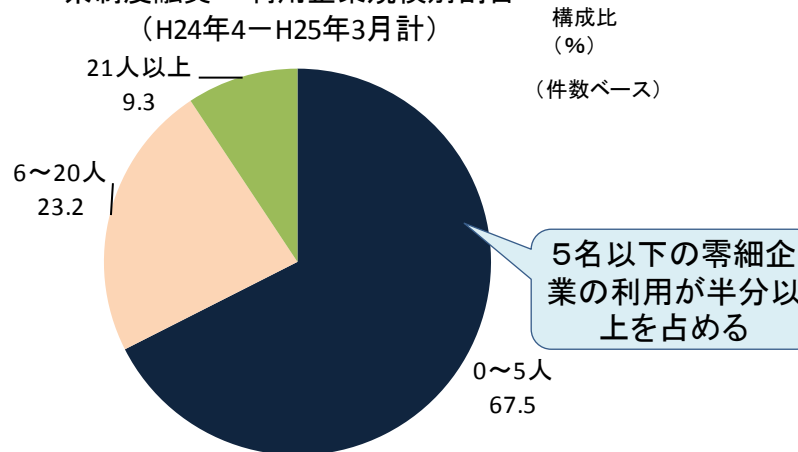
資金繰り-2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。

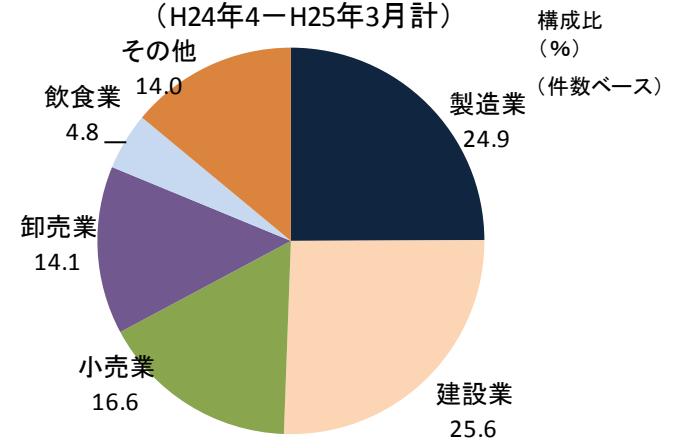
セーフティネット5号保証承諾実績(H25.9月末)



県制度融資 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



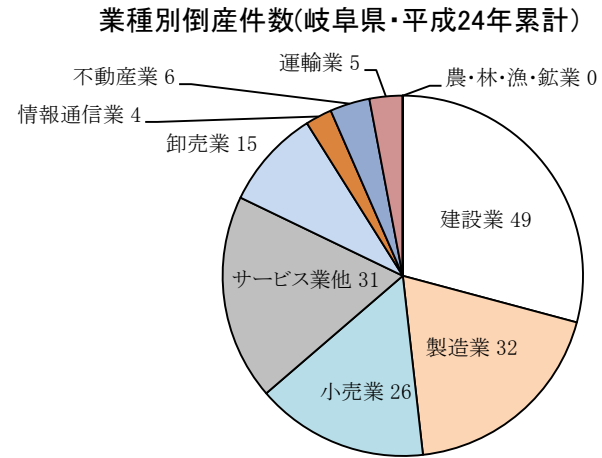
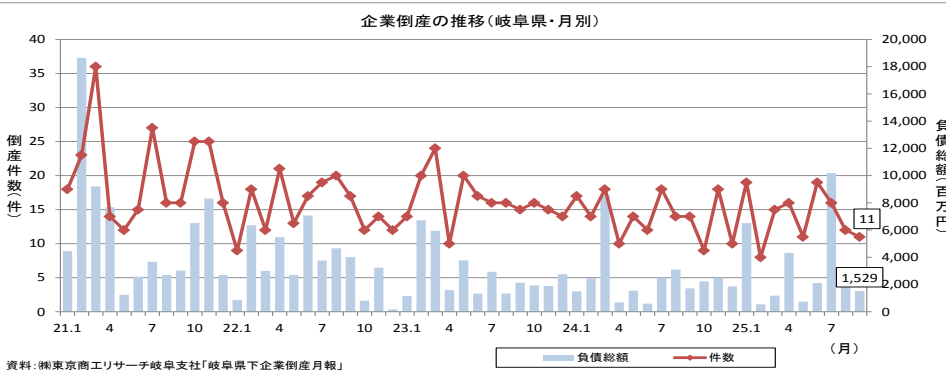
特別経済対策資金 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



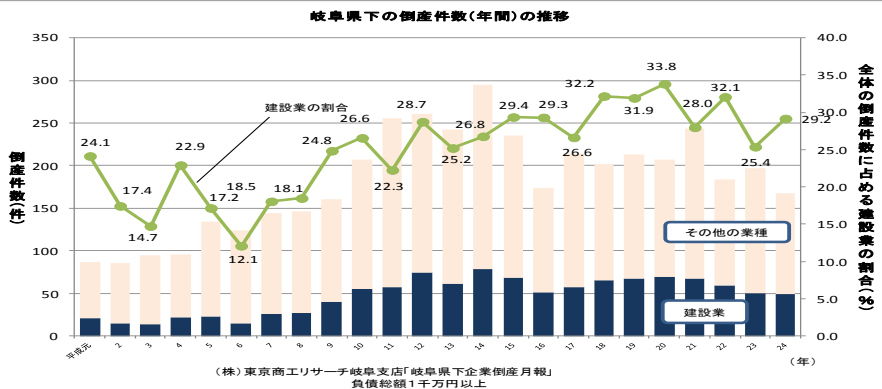
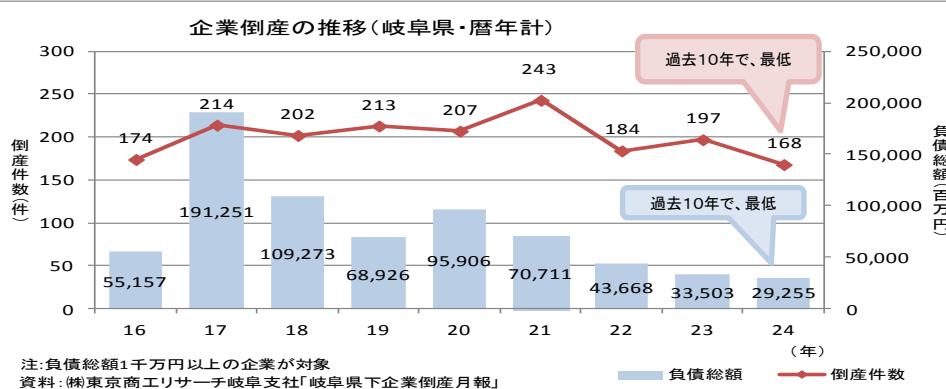
倒産

- 平成25年9月の倒産件数は前年同月から3件減少の11件となった。
- 平成24年の倒産件数は168件となり、前年から29件減少。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



東京商工リサーチ「岐阜県下企業倒産月報」
負債総額1千万円以上



専門機関の分析(東京商工リサーチ)

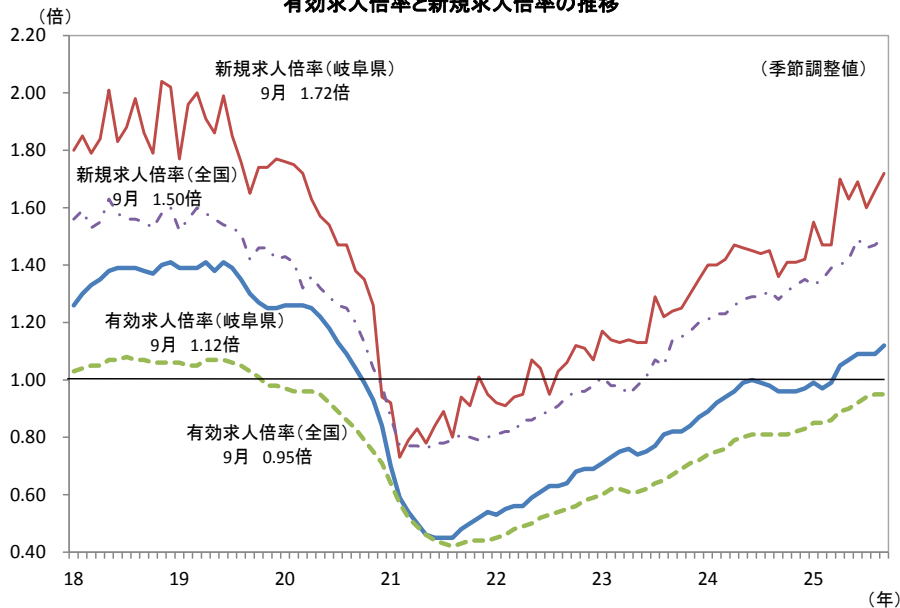
- ◆9月の県内倒産件数は11件、負債総額は15億2900万円となった。そのうち、負債総額が10億円を超える大型倒産は1件発生し全体の負債を押し上げたが、他の10社が1億円以下の負債に留まったことで過去20年間では最低値となった。
- ◆最近の円安を背景とした材料並びに燃料高騰に加えて、電気料金の値上げは中小零細企業の収益改善が進まない要因になっており、未だ景気回復感を実感できない。

雇 用

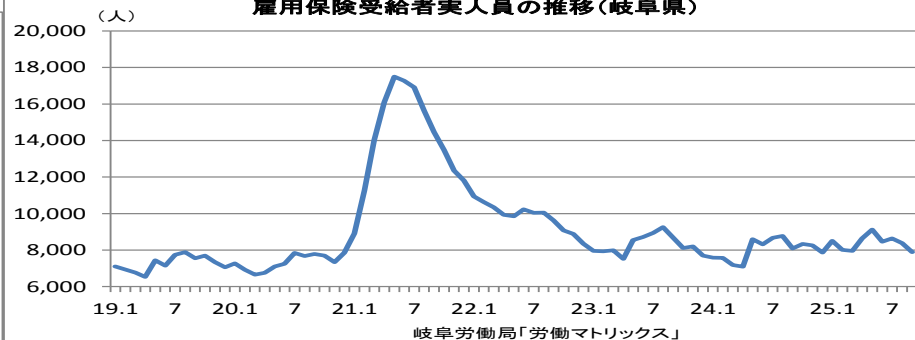
○9月の有効求人倍率は1.12倍と前月より0.03ポイント上昇。また、新規求人倍率は1.72倍と前月より0.06ポイント上昇。

○9月の雇用保険受給者人員は7,888人と前年同月と比べて2.4%減少した。

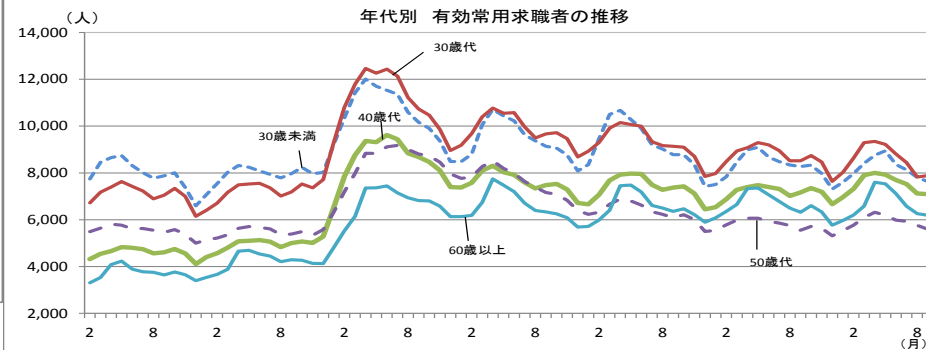
有効求人倍率と新規求人倍率の推移



雇用保険受給者実人員の推移(岐阜県)



年代別 有効常用求職者の推移

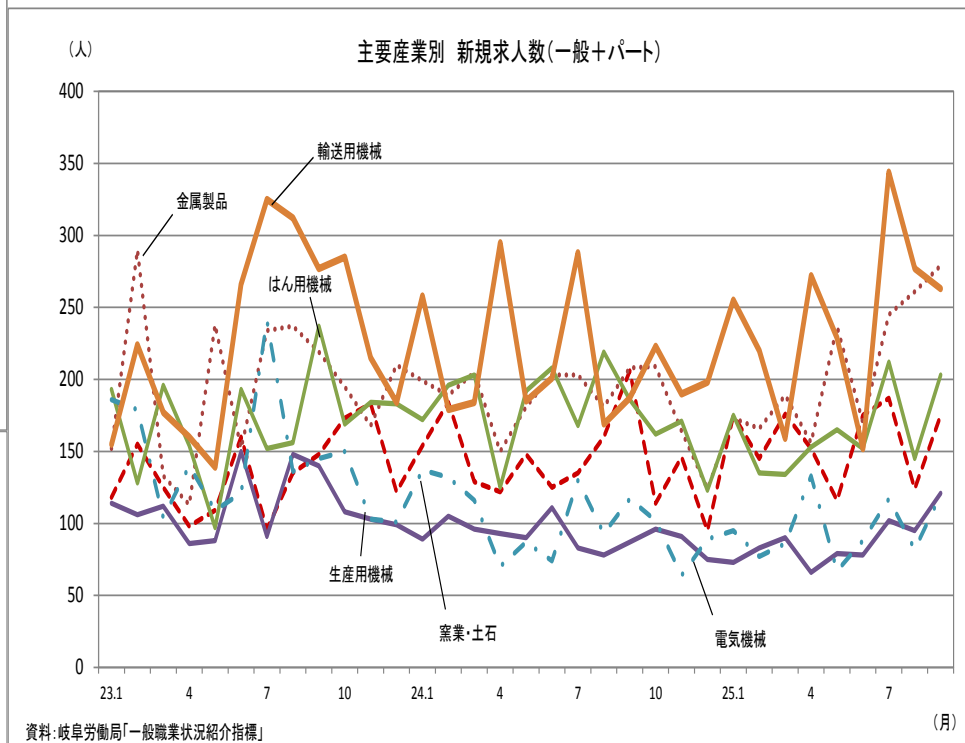
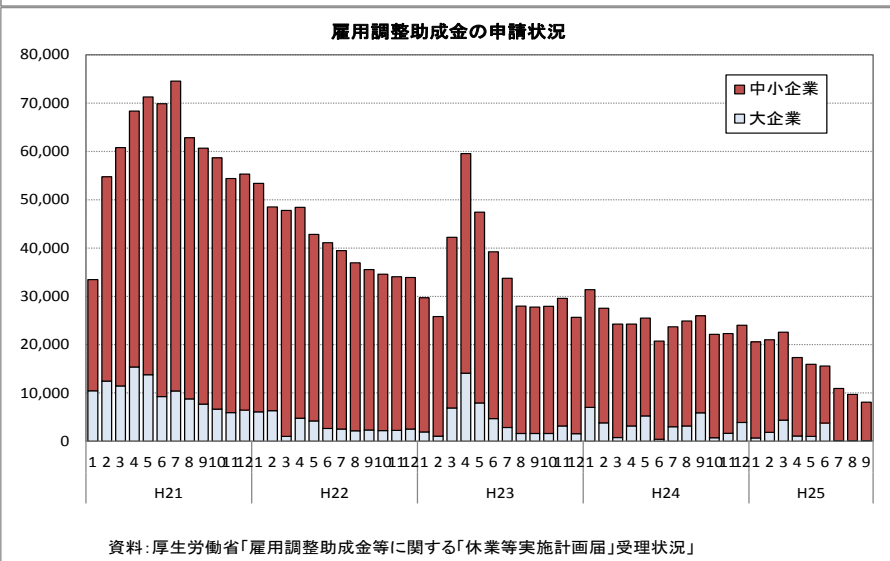
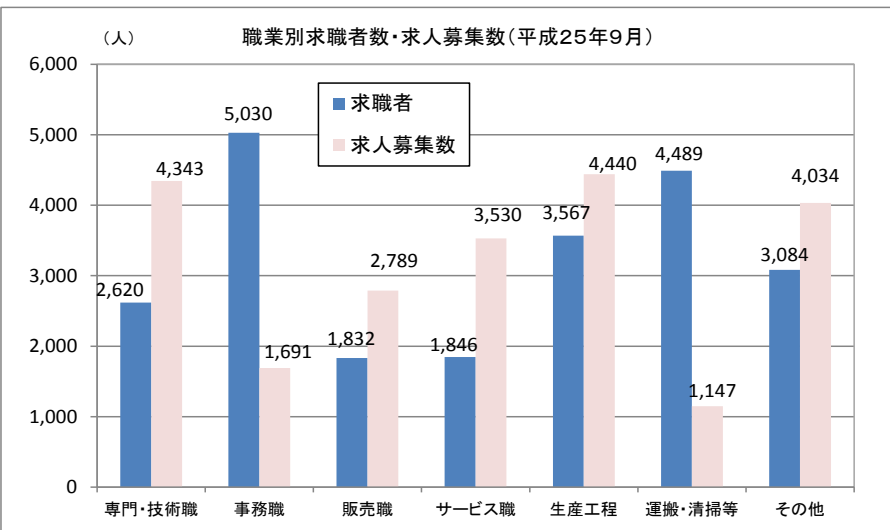


現場の動き

- ◆採用予定はあるものの、これまでに比べ応募数が激減しており、人手不足感が強くなってきた。(食品製造)
- ◆11月も横ばいの予測で、非正規従業員の手配を継続中。
- ◆期間工の募集をかけているが、人が集まらない状況である。(以上、輸送用機械)
- ◆中途採用の募集を行っているが、なかなか技術系の即戦力となる人材が集まらない。(金属製品)
- ◆パート社員1名、派遣社員2名を採用したが未だ人材は不足しており、今後も派遣社員を5名程採用を予定している。(プラスチック)
- ◆薬剤師等技術職が採用できない。(その他製造業)
- ◆各企業現人員数での業務対応が難しくなり、パート・アルバイト・社員化など人材供給の不足感が見える。(人材派遣会社)

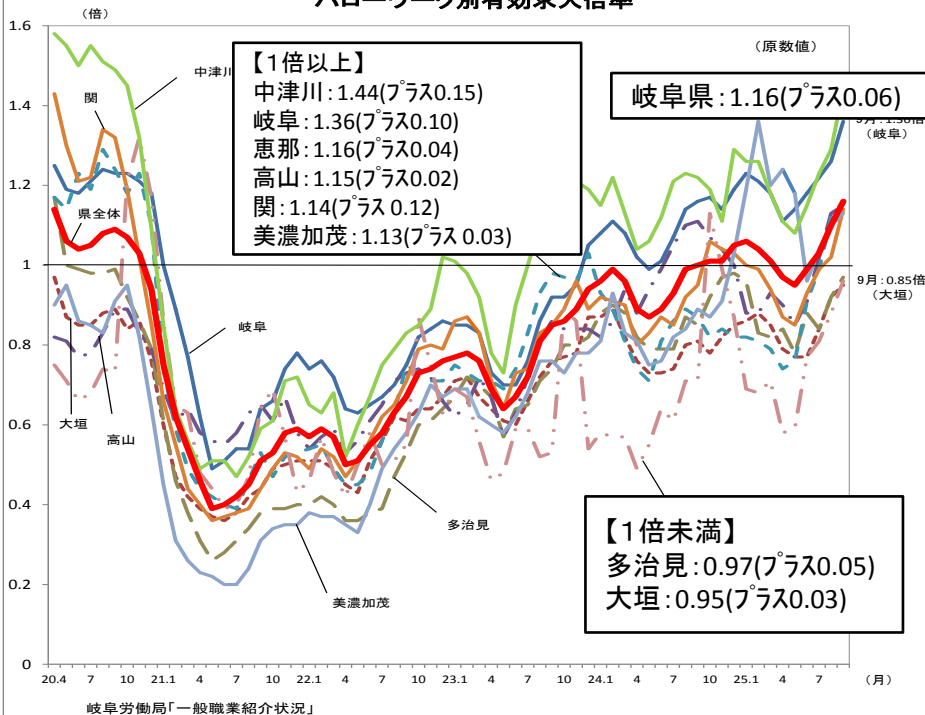
雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は、輸送用機械で減少したものの、金属製品、はん用機械等の産業で増加した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが現在は減少。



雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は横ばい。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険の受給者数は横ばい。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。
- ◆来所者数は増加。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険の受給者数は横ばい。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

【ソニーEMCS美濃加茂サイト関連】

- 従業者数
 - 平成24年10月末: 2,160人(外国人835人)
 - 平成25年3月末: 0人
- ハローワーク窓口の状況(10月25日現在)
 - 求職者数 290人(うち 外国人 104人)

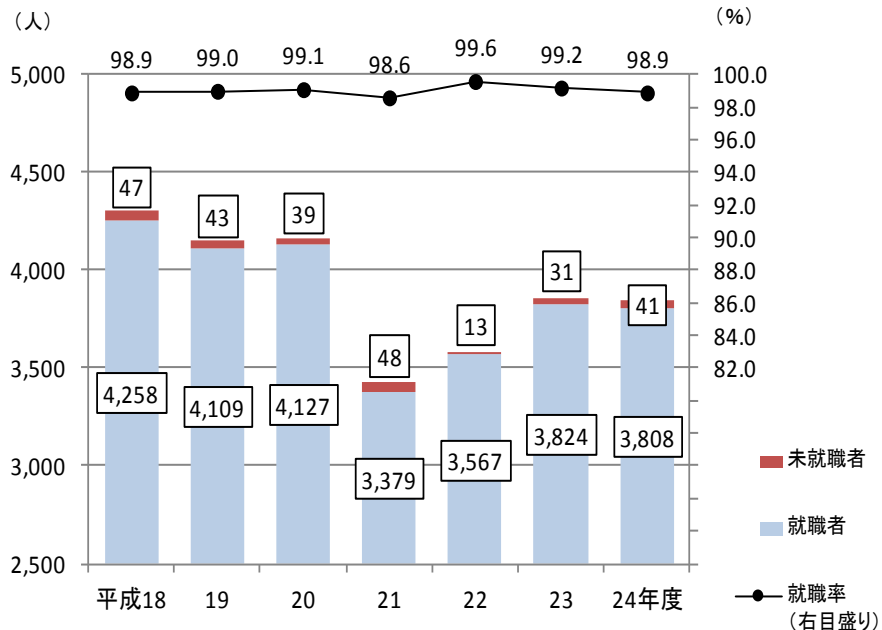
<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数はともに横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

雇用(高校新卒者の就職)

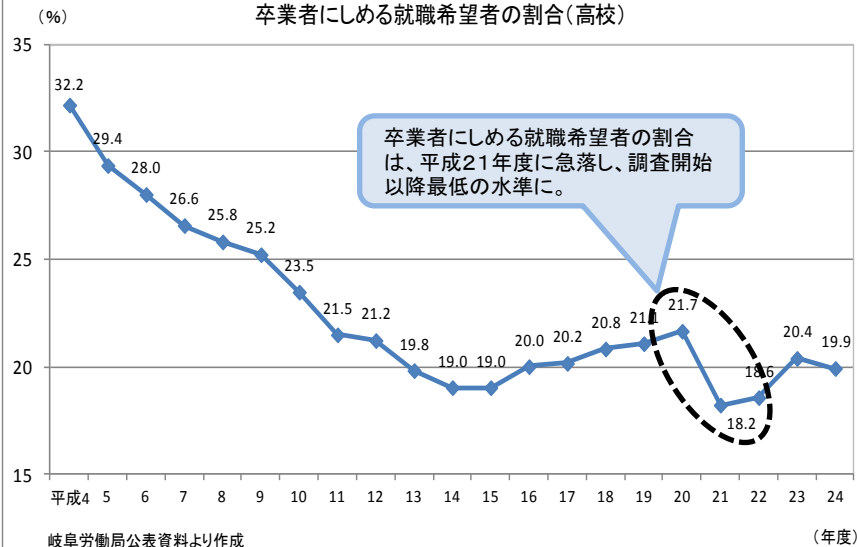
○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



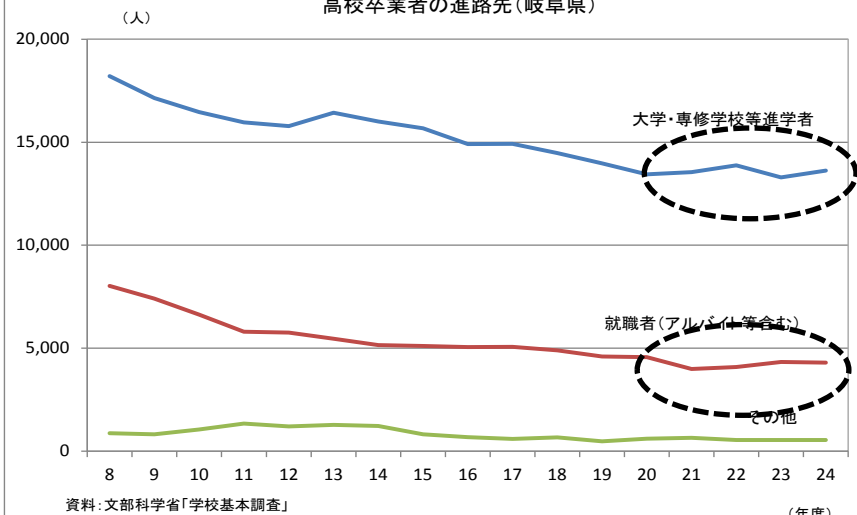
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



岐阜労働局公表資料より作成

高校卒業者の進路先(岐阜県)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

現場の動き(求人状況)

<ハローワーク岐阜、大垣、高山、関、美濃加茂、中津川>

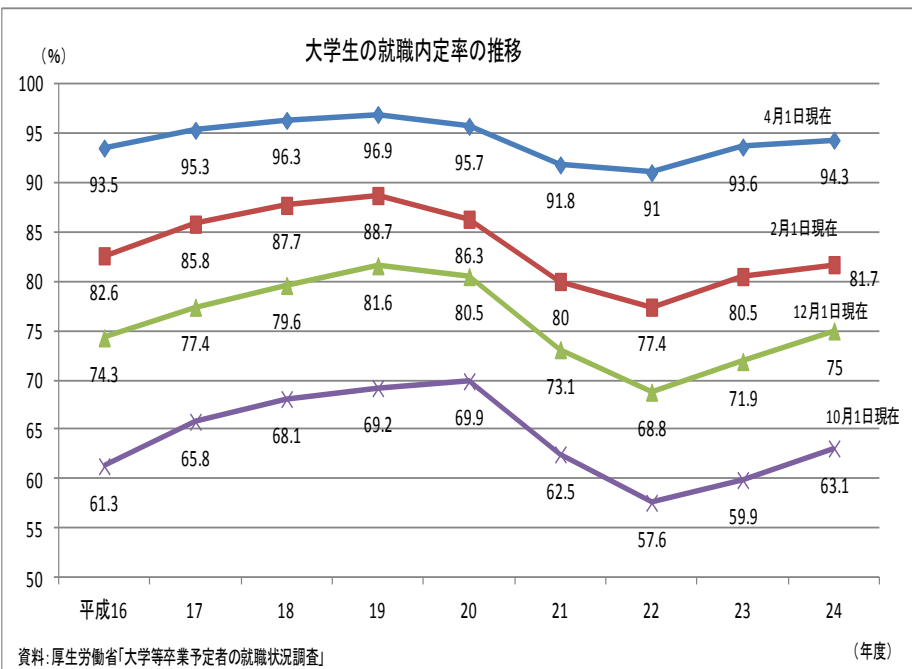
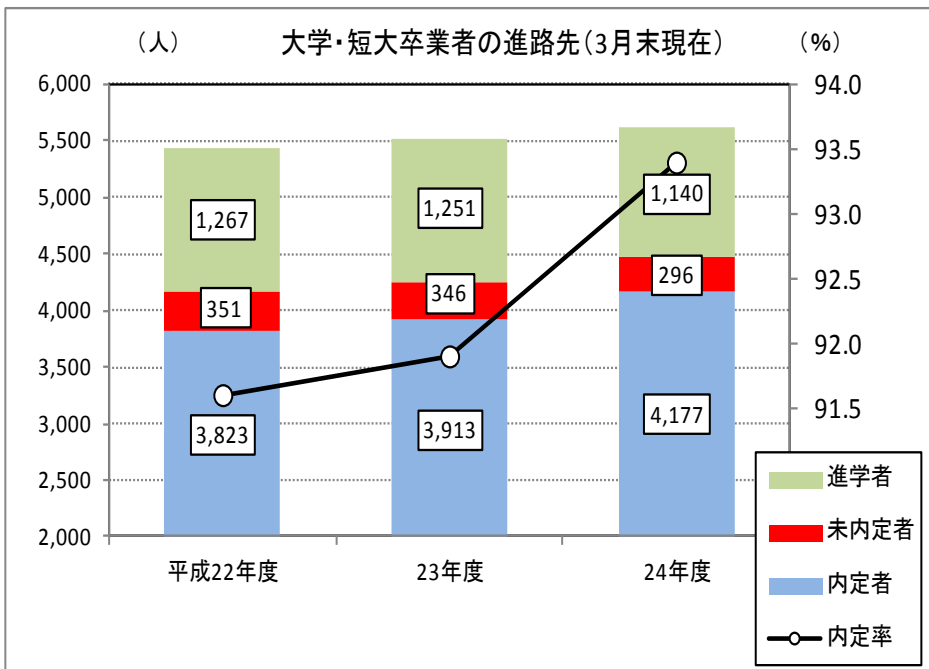
◆高校卒業予定者の求人が増加。

<ハローワーク多治見、恵那>

◆高校卒業予定者の求人が減少。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 平成24年度の卒業生については、前年度より内定率が改善。



現場の動き

【岐阜県内の主な大学】

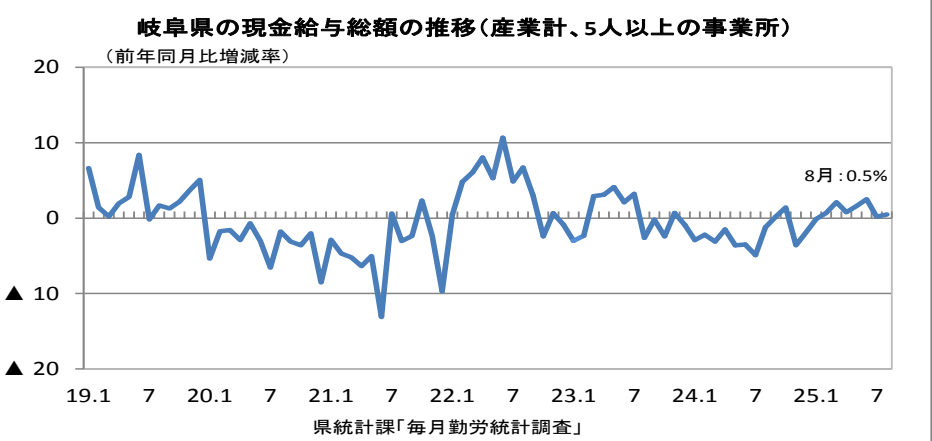
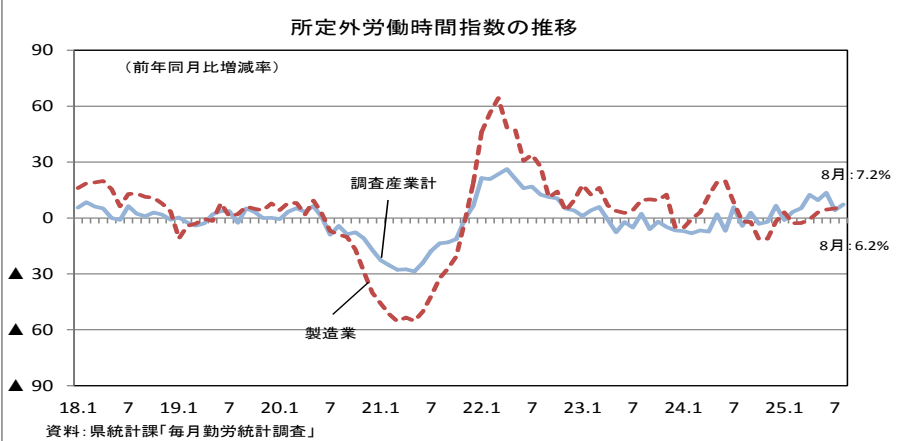
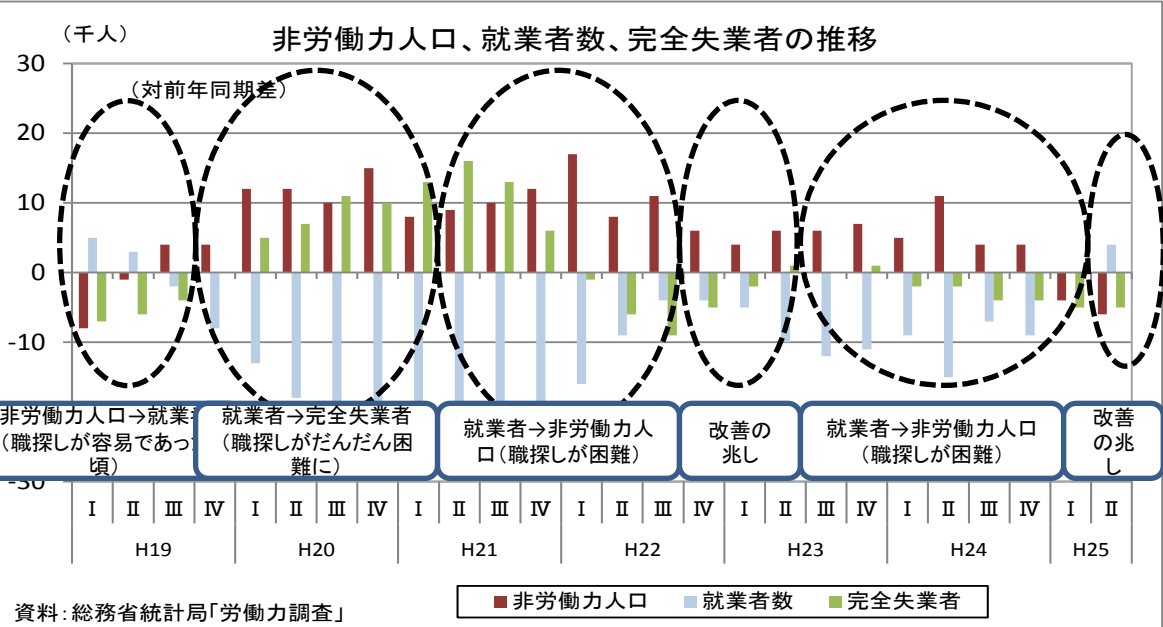
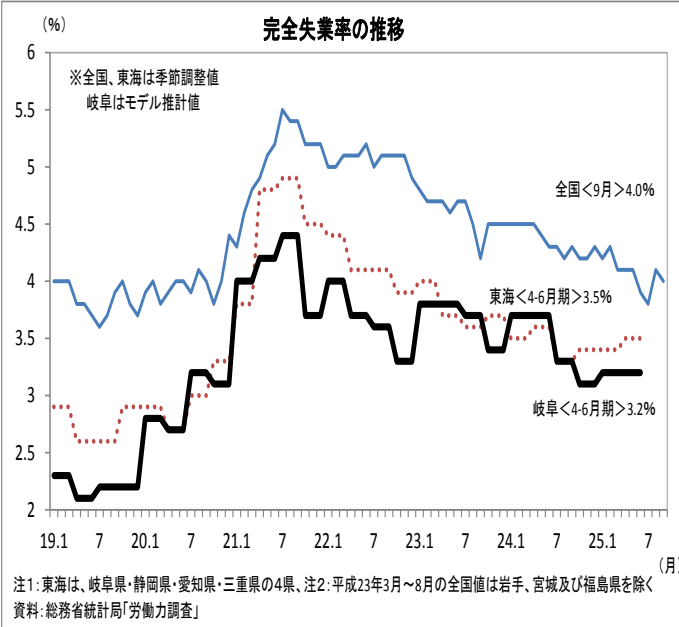
- ・2014年卒の内定率は学部生の内定率は53%前後で(学生報告ベース変らず)、例年に追いつきつつある状況。
- ・2014年卒の内定状況は58%程で、5割を越したが(学生の報告ベース)昨年度と比較すると5%程ダウンの状況。
- ・2014年卒の内定状況は55%で、昨年度より2.3%程アップ。

【愛知県内の主な大学】

- ・2014年卒の内定状況は10月中旬の時点で70%を超え、昨年度より15%アップしている。
- ・2014年卒の内定状況として約55%(学生報告ベース)の状況。
- ・2014年卒の内定状況は、10月最終週の時点で52.7%の状況。

雇用(完全失業率)

- 平成25年第Ⅱ四半期の完全失業率は3.2%と前期比で横ばい。
- 平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。その後再び厳しい状況となったが、直近では改善する兆しがみられる。



< 経済・雇用の現状（総括） >

- 製造業全体では、円安により原材料価格の上昇が生じているものの、輸送機械関連を中心に受注や生産が増加しており収益が改善している。
生産用機械やはん用機械では、中国などの海外向けの受注が減少する一方、円安による国内回帰などにより、受注及び売上げが増加している企業が多い。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売上げが増加する一方で、原材料価格の上昇により製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工では住宅着工増により需要が増加しているが、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売について、衣料品は寒くなってきた後半に秋冬物が動き始めた。食料品は引き続き順調であった。
- 観光は、去年のぎふ清流国体・ぎふ清流大会の反動減などから、総じて前年をやや下回る模様。インバウンドは、台湾や香港アセアンなどに加え、欧米でも好調な動き。
- 雇用面では、生産量の増加により業務量が増えたため雇用を増やす企業が出始めている。雇用にあたっては専門職や即戦力の人材を求めているが、採用に苦慮している企業が多い。
- 企業の資金繰りは、横ばい状態が続いており、新規借入れ需要は依然少ないが、下げ止まりの兆しが感じられる。